

第3回 草津市総合計画策定委員会

開催日時	令和元年10月2日(水) 午前9時55分から午前10時45分まで
開催場所	庁議室
出席者	市長、山本副市長、教育長、総合政策部長、総合政策部理事(公社担当)兼危機管理監、総合政策部理事(草津市未来研究所・行政経営担当)、総務部長(兼法令遵守監)、まちづくり協働部長、環境経済部長、健康福祉部長、健康福祉部理事(健康福祉政策担当)、子ども未来部長、都市計画部長、技監、建設部長、上下水道部長、教育部長、教育部理事(学校教育担当)、議会事務局長、監査委員事務局長
欠席者	北中副市長
議事概要	下記のとおり

1. 議題 第6次草津市総合計画基本構想(素案)について

(1) 社会情勢の変化について【審議案件】

【事務局より資料1-1に基づき説明】

・総務省の自治体戦略2040、内閣府のまち・ひと・しごと創生基本方針2019、県の新しい基本構想等の記載事項を参考に、踏まえる必要のある社会情勢の変化について、超高齢・人口減少社会、地域共生社会など、全国および本市の状況・課題を整理した。

【質疑、意見など】

・「地域共生社会の実現に向けて」の全国の記載で「人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで」とあるが、「人と資源」がつながる事例をすぐにイメージできない可能性もあるので、注釈を入れるか「資源」の記載を変更してはどうか。

→国の地域共生社会の説明で一般的に用いられていることから、原案のとおりとさせていただきます。

・「安全・安心なまちづくりに向けて」の草津市の記載で「広域防災」の視点の記載がないので、追記を検討されてはどうか。

→ここでは、自治体の防災で重要となる地域防災の内容を記載している。広域防災の内容については、まちづくりの基本理念などでの記載を検討する。

・「SDGs(持続可能な開発目標)の推進に向けて」の草津市の記載で「本市は、これまでからもSDGsの趣旨に沿った取組を進めてきました。」とあるが、「SDGsの趣旨」とは、17の目標のことか。もしくは、経済・社会・環境の3側面のことを想定しているのか。わかりやすいように記載を再検討すべきではないか。

→17の目標に向けた取組を進めているという趣旨である。文章の記載は検討する。

(2) 将来ビジョンの検討について【審議案件】

【事務局より資料1-1、1-2に基づき説明】

・現行計画の将来ビジョンは「将来のまちの姿」の中でキャッチフレーズと方向性が記載されており、その形式を踏襲する形で考えている。

・これまでの総合計画の歩み、社会情勢の変化、第5次総合計画の総括評価、市民意識調査などの各調査結果、市民会議等の会議結果などを踏まえて将来ビジョンの検討をしていく必要があると考えている。

・本市を取り巻く社会情勢の変化について、人口減少・少子高齢化およびそれに紐づく諸問題は、枚挙に

いとまがなく、これらにも柔軟に対応する取組が必要であると考えている。

- ・第5次総合計画の総括評価の報告では「住みよいまち、住み続けたいまち」で75%以上の方から評価いただいたが、「誇りや愛着を感じている」では、まだ低い割合である。それらを育むためには、ある程度の期間を要することがわかっているため、まず住み続けていただくという視点が必要になってくる。
- ・「市民が描く将来のまちの姿」について、各種調査、会議結果から「快適で住みやすい生活環境」、健康福祉や防災・防犯、子育て、また、高校生のほうでは、人権の尊重、また趣味娯楽、スポーツ活動、また教育という部分も上がっていた。このような分野については、より力を入れる必要があると考えている。
- ・市民会議では、「将来、住みたいまち」をテーマにグループワークを実施したところ、「人やまちにやさしく、つながりのあるまち」などのソフト面の観点からの御意見が多かった。また地域別懇談会では、ハード面では交通対策、ソフト面ではコミュニティ対策という、身近な課題が非常に多く上がった。こういったものを課題として捉えて対策を進める必要があると考えている。
- ・これらを踏まえ、将来ビジョンの一つの方向性として、4つの視点でストーリーを整理した。まずは本市の持つ強みに一層磨きをかけて、「つながり」や「やさしさ」に基づくまちづくりを進め、人と人とのつながりや思いやりを地域共生社会や地域防災の部分でつくり上げることで、人口減少や少子高齢化が進行して生じる諸課題にも、柔軟な対応が可能となるのではないかと考えている。それが次世代にも受け継がれ、住み続けていただくことで、誇りや愛着も醸成されるというストーリーを整理した。

【質疑、意見など】

- ・社会情勢の変化で、人口減少というのはこの期間、令和14年までの12年間の計画の中で局面を迎えるというが、いつになる見込みか。
→人口減少については、2030年、令和12年の147,400人をピークに、草津における社会増は収束し、人口減少が始まると推計している。
- ・「問題視される課題」の記載だが、課題は問題視されるので課題であり、言い回しが適切ではないと思われるので、「多様化・複雑化する課題」などに変更されてはどうか。また、「柔軟に対応」とあるが、柔軟だけでなく適切も加えてはどうか。
→修正する。

その他

なし

以上